

「山・里・海」を活かした都市部の若者との交流

(石川^{ななおし}県七尾市 小牧^{おまき}棚田管理組合集落協定)



- 風光明媚な棚田を守り、美しい里山景観を次世代へ引き継ぐため、集落外や都市部との交流に取り組み、集落の景観を維持する体制を構築。

面積：10.7ha（田） 交付金額：224万円（個人配分40%、共同取組活動60%）
協定参加者：農業者25人、非農業者3人 協定開始：12年度

地域の現状

- 当地区は、七尾市の北部に位置し、七尾湾と立山連峰を見渡す風光明媚な棚田の地域である。
- 農業従事者の高齢化、後継者不足による耕作放棄地の発生等が課題となっていたため、平成12年度から本交付金に取り組む。
- 水路、農道の補修・改修のほか、ドローンを活用した共同防除等により、耕作放棄地の発生防止に集落ぐるみで取り組む。
- イノシシ等の獣害対策として、協定農用地を6団地に区分けし、電気柵を設置・撤去。集落の若者組である壮年団と連携して、「わな」を設置。



【風光明媚な棚田】



【ドローンでの農薬散布】



【わなを設置】

取組の概要

- 集落の多くが兼業農家であることから、協定農用地の8割を集落内外の担い手へ集積し、農地を維持。（認定農業者等に9ha集積）
- イノシシが出没した際、本交付金にて先んじてわな、電気柵を購入、設置。被害を最小限にとどめる。併せて、鳥獣被害防止総合対策交付金を活用し、協定エリア全域をカバー。
- 県の「いしかわ農村ボランティア」制度を活用。農村役立ち隊を募り、構成員と共に電気柵を設置。
- 人口減少により存続が危ぶまれる伝統行事を、壮年団が呼び掛け、都市部の大学生と共に継承している。虫送りにおいては、団員、学生等で用水路に侵入した竹を伐採し、松明の原材料として使用している。



【ボランティアによる電気柵設置】



【虫送りの松明づくり】